



中日新聞北陸本社
金沢市駅西本町2丁目12番30号
〒920-8573 電話 076(261)3111

2022年(令和4年)
1月7日
金曜日・仏滅
七草

トキ舞う能登 目指そう

絶滅の危機にあるトキが、再び大空を舞う環境を目指そうと石川県の能登半島の有志がファンククラブの設立に乗り出した。拠点となるのは本州最後のトキ「能里」が一九七〇(昭和四十五)年に捕獲された穴水町。少子高齢化が進む町では人手が足りないため、ホームページ(H.P.)を通じて全国から会員を募る考えだ。八日には第一弾の試みとして、町内でシンポジウムを開き、能登での放鳥に向けた機運を高めていく。

(森本尚平、写真も)

その名も「能登トキファンククラブ」。行政主導ではなく、地域住民らの熱意でトキを守るという動きは全国的にも珍しい。シンポジウムでは、トキゆかりのパネリスト三人が登壇、能里に思いをはせる。

中心となって取り組むのは、元県議で町体育協会会長の宮下源一郎さん(七四)。昨秋、ファンクラブの設立に先駆け、H.P.を開設するなど、準備を進めてきた。シン



QRコードを自ら開設するなど、準備を進めてきた。シン

最後の「能里」捕獲 穴水であすシンポ



めてもらおうと企画したシンポジウムでは、長年トキの保護活動に尽力するNPO法人「日本中国朱鷺保護協会」名誉会長の

翼を広げたトキの写真の前に、再びトキが舞う環境づくりへの思いを語る宮下源一郎さん＝石川県穴水町乙ヶ崎で

村本義雄さん(九七)＝同県羽咋市。らが、その魅力を語る。このほか、県輪島漆芸美術館名誉館長で、県職員として能里の捕獲に携わった経験がある歴史学博士の四柳嘉章さん(七五)もパネリストとして参加。伊勢神宮(三重県伊勢市)のご神宝「須賀利御太刀」に、なぜトキの羽が飾られているのか、自身の漆器研究を交えて解説する。四柳さんは「伊勢神宮のご神宝の中でも最も豪華絢爛な刀剣とトキの関わりについて研究した人はいない。この謎を解き明かすことでトキを高貴な存在と扱ってきた精神性を紹介できれば」と話す。

トキの保護を巡っては、昨年、谷本正憲知事がトキの県内放鳥を目指す考えを表明した。宮下さんは「トキが安全に暮らせる場所にするにはまず知る必要がある。少しずつ運動を広げることが必要。少しずつ運動を広げていければ」と意気込む。

◇ シンポジウムは午後二時～三時半に同町内浦ののとふれあい文化センターで開く。入場無料。